

福井県高P連 会報

発行人 福井県高等学校PTA連合会
 (福井県生活学習館「ユニーアイふくい」内) 小林 一朗
 URL: <http://koupren-fukui.gr.jp/>



勝山高校日本文化部「第45回全国高等学校総合文化祭の国わかやま総文2021」

福井県高P連研究大会

令和三年度の県高P連研究大会が十一月六日(土)午後から、福井商工会議所コンベンションホールで、一〇八名が参加し開催されました。

開会式では、初めに小林一朗会長が、教育長との懇談会の報告と併せ、「自転車利用者



小林一朗高P連会長

のヘルメット着用について保護者も一体となつて進めていきたい。また、今年度県高P連では、デジタル化の推進とSDGsに関する事を学んでいくことを方針として掲げており、この大会が、皆さんにとって学びの深い大会となることを願っています。」と挨拶されました。



山崎良成 県教育庁副部長

続いて、来賓の県教育庁副部長(高校教育)の山崎良成氏から二十一世紀はAIがオフイスを自動化すると言われ、高校生一人ひとりが求められる能力が大きく変化していきます。一つ目は、抽象的な概念を自分なりに整理したり、新しい価値を創造する力、最適化を提示できる力、二つ目は、相手がいることを理解し、説得や交渉ができるコミュニケーション力、調整力です。そして、三つ目は、役割が体系化されていない多種多様な状況に対応する力であり、自分自身が判断し行動できる力です。県教育庁は、全国高

校生プレゼン甲子園や、地域との連携を視野に入れた探究的な学びを通して、高校生が三つの力、能力を身に付けられるよう取り組み、教育の質の向上を目指しています。ご支援とご協力をよろしくお願いいたします。」と祝辞を頂きました。



松田透県高等学校長協会会長

続く、県高等学校長協会会長の松田透藤島高校校長も祝辞で、「二十一世紀に求められる三つの力、能力について話され「デジタル中心となり、違った能力を持った人間が集まるコラボレーション型となる二十一世紀は今までのPDCAサイクルからAARサイクルとなります。『見通しを立て、行動し、振り返る』子どもたちが取り組んでいる探究学習はまさに、このサイクルです。初めからバグのないプログラムは書きません。荒削りな設計ができたらず書いてみて、エラーが出れば直し、少しずつゴールに近づけることが必要です。その意味で、私も本日の研究大会を大いに参考にさせていただきます。」と話されました。

開会式後の講演会では、福井県出身のYouTuberかずえちゃん氏を講師に招き「ゲイの僕がYouTubeに乗せて伝えたいLGBTQのこと」という演題で



講演会講師 かずえちゃん氏

講演を頂きました。前半部分では、自分のセクシャリティ(ゲイ)を自覚し、孤独や恐怖を感じて生きていた「少年期」ゲイだとバレたら嫌われる、笑われると、人と正面から向き合うことを恐れ自分の心にふたをして生きた「青年期」について話されました。そして「出会い系サイト」を通じて人生で初めて自分と同じゲイの人と出会い「自分だけじゃないんだ。」というんな感情が湧き起こった二十歳のころ、その後、両親に紹介(カミングアウト)した時のこと、カナダへ語学留学するときの決意などを、丁寧な口調でまっすぐ私たちを見ながら語って頂きました。後半の部分で、帰国後YouTubeを始めた原点である「子どもの時に教えて欲しかったこと」を話され「私のような思いをする子どもが少しでも減ってほしい」という熱い思いも知ることができました。かずえちゃん氏の、LGBTQ百人カミングアウトやALL Y(アライ)の輪を拡げる取り組み、「かず部屋」の立ち上げなど、LGBTQの可視化のための第一歩である「知ること」が我々もできたと思える貴重な時間となりました。

実践発表

坂井高校PTA

「坂井高等学校のPTA活動」

「コロナ禍での生徒支援の模索」

上田修平会長、五十嵐雅世副会長に発表していただきました。

PTAの組織は、各クラス二名の学級委員が役員会を構成し、生活・総務・進路の委員会があり、総会などの諸会議と学校祭への協賛・朝の声かけ



運動・地域交流祭への参加など、生徒の日常生活に係わったり、学校祭・地域交流祭を盛り上げようとするなど、子どもたちと共に歩むような活動が中心です。

学校祭への協賛では、例年PTA模擬店として役員総出で早朝から準備して五千本の焼鳥を提供し、大変好評だったそうですが、コロナ禍の影響により社会生活が一変し活動が大きく制限されることとなり、PTAとしていかに子どもたちへの支援をしていくかが課題となりました。そこで、昨年度は体育祭への支援として感染症・熱中症対策の生徒用テントの増設と一人一本の飲物の提供を実施したそうです。今年度は、衛生面をクリアし少しでも子どもたちと共に学校祭を盛り上げるために調理を伴わない模擬店を開催、人気の高い大手販売店のチキンナゲットのパッケージされた商品を仕入れ、子どもたちの負担を軽減するために半額で提供しました。概ね好評で、協賛

は一定の成果を上げることができたようです。また、体育祭参観の要望が多いことから応援の動画配信を実



発表風景

現、進路行事の卒業生と語る会では当該年度の卒業生から最新の体験談を聞くことを提案し、実現させました。PTA活動も変わらざるを得ない状況となり感染症対策をした上での可能な活動の継続が必要であり、手探りで生徒支援の模索と県高P連での情報交換は以前にも増して重要となつていると痛感したとのことでした。

丹生高校PTA

「コロナ後のPTA活動について」

向富淳会長が発表されました。

当校は、旧越前町を中心とした学校で、公共交通機関が十分整備された地域ではないことから冬期では四分の三の生徒が自家用車による通学となることがあるとのことでした。また、九割以上が三年間部活動に取り組み、地元が大学、企業への進学就職が多い、地元愛のある生徒が育っているそうです。



PTA活動で特色となっていることは実行委員九名が原案を作成し、各クラスから二名選出される代議員が決議機関となり、総会は報告会だということです。そして、交通安全、ボランティア、広報の委員会に分かれて活動します。新型コロナウイルスにより種々のものが中止、変更となり、PTA活動をどうしたらいいのか問い直し、それぞれ検証を行ったそうです。

① **チェックするPTA**
総会はこの数年参加者が減少しており活性化が必要。学校評価アンケート、公開授業はコロナ禍でも必要最低限は

できた。
② **共に行事を行うPTA**
コロナ禍で集まることが禁止となったことにより多くの行事が中止、変更となった。学校祭では例年の模擬店出店を中止し、熱中症対策として飲物の追加配布とミストの設置を行なった。親子ボランティアは二年度中止、三年度は縮小実施したが親、生徒、教員と一緒に何かをするということは大事な機会だと感じた。

③ 提案するPTA

PTAは様々な職業に就いているため広いコネクションと機動性が強みとなる。PTAの提案により登下校の自家用車での送迎時の混雑が解消できた。コロナ禍によりPTAの提案・意見を十分に吸い上げることができたことが反省。

まとめとして、PTAが提案・チェックを繰り返して、生徒、学校と共に行事を行うことによりバンドが生まれ、好循環するのではないかと、そして、PTAの強みを活かせば教育環境の整備ももっとうまくいくのではないかと、このことでした。また、新型コロナウイルスの影響により生身の付き合いの重要性を感じたようです。



発表風景

(敦賀工業高校PTA会長 能美浩志)
(美方高校PTA会長 瀨野利彦)

キャリアガイダンス研修会

県高等学校PTA連合会主催のキャリアガイダンス研修会が令和三年九月十一日(土)午後、福井県立図書館多目的ホールにおいて開催されました。本年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のために、講演はリモート方式で行われ、また参加人数も約六十名に絞った開催となりました。



小林一朗会長

初めに県高P連の小林一朗会長が開会の挨拶をされ、地球温暖化の問題が待ったなしの課題であり、この研修会を契機として、今後、さらに多くの学校で露木さんのお話を聴く機会を設けてもらいたいと本企画の趣旨を述べられました。

続いて「二十歳環境活動家が思う地球の今」と題して、環境活動家の露木志奈氏による講演が行われました。露木さんは二十歳。現在、大学を休学して全国の若者に気候変動の問題を伝える講演活動を行っています。

露木さんは、高校時代、インドネシア・バリ島のグリーンスクールに留学し、そこで肌の弱い妹のために化粧品づくりの研究を行う中で、動物実験のこと、ゴミの山のことを知り、環境問題と深く向き合いました。また、二〇一八年にポーランドで開催された国際会議に参加した際に、スウェーデー

ンの環境活動家グレタ・トゥーンベリさんと会い、若い人でも活動していけるという事実を目の当たりにします。そして、世界の活動している人たちと自分との差は何だろうかと考え、それは「情報の格差」だとの結論に至り、そこから「伝える」ことをしたいと思うようになったそうです。

二酸化炭素を吸収し、酸素を放出してくれる熱帯雨林は、地球の肺と呼ばれています。しかし、ボルネオ島では、パーム油の原料となるアブラヤシ栽培のために熱帯雨林が燃やされています。そして私たちは、そのパーム油を多く輸入し、消費しています。南米アマゾンの森林も燃やされています。家畜の餌となる穀物の生産のため、つ



講演会講師 露木志奈氏

まり、私たちが肉を食べるために。世界で飢餓に苦しむ人たちの支援に必要な食料が年間約三百万トンであるのに対し、日本で廃棄されている食品は年間六百万トンを超えています。その半分は私たちの家庭から出ています。食品の廃棄処理のために、さらにエネルギーが消費されています。捨てられているのは食べ物だけではありません。私たちに身近なファストファッションの衣服。その衣服を生産するバン格拉デシユの工場の建物が倒壊し、多くの労働者が亡くなる事故が発生しました。貧しい国の労働者が、劣悪な環境の中で命がけで生産しているファストファッションの衣服も、実にその六割は廃棄されています。

露木さんは語りかけます。「なんでだろう?」と考えた先に、必ず自分ができることについて。私たちは、ボルネオ島のアブラヤシから生産されたパーム油を使用した製品を消費し、アマゾンの畑で収穫された穀物を餌にして育てられた家畜の肉を食べ、ファストファッションの衣服を購入しています。でも、誰も環境破壊したいと思っ



会場風景

てそれを選択しているわけではありません。知らないだけなのです。

「三・五%の法則」という法則があるそうです。米国の研究者が二十世紀に起きた多くの市民活動を調査したところ、変化や革命は賛同する人がその集団の三・五%に達した時に生まれるとのこと。露木さんは、そこに希望を見出し、日本の中高生全体の三・五%にあたる二十一万人の中高生に気候変動についての思いを届けることを目標に活動されています。

最後に、露木さんが活動していくうえで大切にしている言葉で、講演は締めくくられました。何かを始めるのに「大人になるまで待たなくていい」。グリーンスクール時代に、同世代の子からかけられた言葉だそうです。

露木さんのとても興味深いお話に、参加者は皆、真剣に聴き入っていました。最後に、向富淳副会長が謝辞を述べ、研修会は終了しました。

研修会に参加して、一人でも多くの中高生に露木さんのお話を聴ける機会を設けてほしいと強く思いました。それによって地球環境問題に対する「情報格差」が埋まり、認識が変わっていくことはもちろんですが、それにとどまらず、露木さんの言葉や行動、その姿から、中高生は多くの刺激を受けるであろうと確信しました。

(福井商業高校PTA会長 井上 毅)

県教育長と高P連役員との懇談会

県教育長と高P連役員との懇談会が十月二十二日(金)に県庁十一階教育委員会室にて開かれました。県教育委員会からは、豊北欽一教育長、油谷泉学校教育監、山崎良成副部長(高校教育)、高橋道男教育政策課長竹澤宏保教職員課長の五名、県高等学校P.T.A連合会からは小林一朗会長以下九名の役員が参加しました。

最初に小林一朗会長から「本来であれば、各高校のP.T.A会長がこの場に参加させていただくのが望ましいところですが、コロナ禍ということで、高P連の理事九名で参加させていただくことになりました。本年度の高P連の活動方針として、デジタル化の推進とSDGsの学習を掲げています。本日の四つの懇談項目を含め、私たちもいろいろと学びP.T.Aとして何ができるかを考える機会にしたいです。」と挨拶がありました。



小林会長

続いて豊北欽一教育長からは「日頃から本県の教育振興のためにご尽力いただいていますことに感謝申し上げます。

す。P.T.Aは、校長、教職員と共に学校をよくしていく両輪だと考えますので、学校の魅力化に向けご協力をお願いします。今の教育の中心は生徒の主体的な学びであり、福井県もそのように変わっていきたいと思っています。本日はいろいろとご意見を聞かせていただきたいと思います。」と挨拶がありました。

この後、主に四つの話題について意見交換がありました。



豊北教育長

福井県の教育全般について

小林会長から「福井県の教育について、福井は豊かな人づくりがなされていると感じていますが、いろいろな課題もあります。特に、今後少子化が進んでいく中で、さらなる学校再編・学科再編は予定されているのか、中学生が高校を選択する際に学科・コースについて、分かりやすく理解されているのか、新学習指導要領で求められている探究について福井県としての取り組み

みについてはどうなっているのか。」と話題提供がありました。

県教委からは「当分は学校再編や学科再編の予定はありません。昨年六月に福井県高等学校教育問題協議会の答申が出され、その中で地域のコミュニティを高校が担っている面があるため、小規模でも高校を残すことが望ましいとされています。現在は中学生に選んでもらえるように、それぞれの高校に磨きをかける取り組みをしています。

職業系高校においては、今年度から『ふくい産業』というオンライン講座を始め、職業や企業の魅力について企業の方から紹介してもらっています。農林水産業についての講座も行い、生徒たちは初めて知ることが多く、視野を広げることに繋がっています。

高校の魅力化については、来年度、羽水、丸岡、足羽、武生東、勝山に探究に関する新学科・コースを設置します。毎日の七時間授業を少し減らし、生徒に時間を返していくことで、生徒の主体的な学びを育てていこうとしています。この五校がクローズアップされがちですが、新学科・コースを作らない学校でも自らの特色を生かした魅力化に取り組んでいます。」と説明がありました。

東真一監事からは「探究科ばかりがクローズアップされてしまう心配があるので、学校全体での魅力化を図っていく取り組みをしてほしい。」という提

案がありました。

これに対し県教委からは「来年度からの学習指導要領では探究学習が重視され、普通科においても、もちろん探究学習を行います。福井県では、探究的な学びが主体的な学びに繋がりが、それが二十一世紀に必要な人材の育成に繋がると考えていますので、強化して取り組んでいきたいです。」と発言がありました。

また、先織大悟監事からは「私立高校との併願が少なくなり、魅力が分かってもらえなくなると中三生の保護者から聞きました。挑戦できる機会が増える仕組み作りを考えていただけるとありがたい。」という意見がありました。

教育環境の整備状況について

栗原泰道副会長から「特別教室の空調準備予定や使える電力量(デマンド)はどうなっているのか。私立高校に比べて老朽化が進んでいるように思われる校舎やトイレの改修予定はどうなっているのか。魅力化の一つに通いやすい環境ということがあることから、交通手段の整備予定はないのか。」と話題提供がありました。

県教委からは「空調については、普通教室を先に整備していますが、特別教室についても締め切って利用する図書室等を優先的に整備しています。デマンドについては、生徒の健康を考え、デマンドに関係なく空調をつけるように通知を出しています。

普通教棟のトイレについては、学校全体のリノベーションも含めて工事を



進めており、大体八割ぐらいが洋式に変わっています。令和六年度ぐらいにはすべての学校で、必要なトイレの洋式の整備を終えることができると思っています。

校舎については、三十五年ぐらい経過し、まだ改修に手をつけていない施設が百以上あります。その施設を長寿命化する計画をしています。具体的には、築四十年ぐらいを目途にリノベーション（大規模改修）をし、改修から二十年後に必要とあればまた改修をして、八十年持たせるといいます。

予算の関係もありますので、老朽化の状態を見ながら順次整備を進めて行くこととなります。

交通手段の整備については、学校の立地によって公共交通機関の利便性の違いがあると思いますが、現在のところ、高校においてはスクールバスを出

すことは考えていません。」と説明がありました。

伊東尋志理事からは「ケースバイケースでしょうが、車椅子の生徒さんのバリアフリー化を相談するにはどうしたらよいですか。」という質問がありました。

県教委からは「バリアフリーは今後進めていかなくはないかと思っています。車椅子の生徒さんがいらっしゃるといふことでエレベーターを整備した学校もあります。学校側と相談しながら進めていきます。」と回答がありました。

ICT教育について

重田勝正副会長から「福井県は、全国に先駆けてタブレットが配備され非常に素晴らしいと思います。ただ、タブレットの不具合等に対してサポートできる体制があれば、生徒も教職員も戸惑わずに使用できるのではないかと思います。現在のサポート体制等はどうかっているのか。また、ICT教育に関連して、新型コロナウイルス対策についてどうなっているのか。」と話題提供がありました。

県教委からは「今年度ICT支援員として専門スタッフを二名配置し、五月から月一回のペースで各学校を巡回しています。最初は、学校からICT支援員に寄せられる質問内容は、機器やアプリの使用方法等基本的なことが多かったようですが、最近では、いろいろな形でレベルの高い使用がされるようになり、質問内容のレベルが上がりました。県外出身のICT支援員が

らは「福井県の先生はすごいですね。」という感想を聞いています。また、ICT支援員が学校から受けた質問とそ回答をまとめ、問答集のような形でも整理しています。現在、他校の教職員にも共有できるようになっています。

十月時点では、十二歳以上で二回目のワクチン接種率は八十%となっています。教職員についても、九月末時点で、九十%以上の方が接種済または予約済です。感染症対策を徹底することが有効であるので、今後も継続していきたいと思っています。」と説明がありました。

教員の働き方改革について

向當淳副会長から「教員の働き方改革についてですが、補習や部活動、授業の準備等、保護者から見ても教員は忙しそうです。一生懸命に取り組んでいただけるのはありがたいですが、子どもたちと触れ合う時間が少なくなるのではないかと心配しています。県としてどのような対応をしているのか。」と話題提供がありました。

県教委からは「教職員の時間外労働について、超過勤務が月八十時間以上というのが過労死ラインと言われています。月八十時間以上を越える教職員の数は昨年と今年を比べると半減しています。高校の場合、八十時間を越える勤務になる理由の一つが部活動です。遅出勤務の活用、複数での部活動担当、部活動外部指導員の導入等の取り組みで対応しています。

また、コロナ禍ということで、教員の研修について、集合型からオンライン



ンの研修が変わっています。オンラインにすることで移動時間のロスがなくなりやすいので、今後もできるだけ取り入れたいと思います。また、会議の回数や時間を減らし、教職員がフリーになる時間を増やしていきたいと思っています。教職員は子どもと向き合うのが本来の仕事ですので、そこは大切にしたいと思っています。」と説明がありました。

四つの話題が終了した後はいくつかの情報交換があり、予定終了時間を多少オーバーしました。最後に栗原泰道副会長からは、県、教職員、PTAが三位一体となって進んでいきたいとの挨拶があり、閉会しました。

ちよつと おぼしやましましませう!

Introduction

科学技術高等学校

科学技術高等学校は、明治四十年に開校し、創立一〇年を超える、長い歴史と伝統を誇る工業高校です。現在、機械システム科、化学システム科、テキスタイルデザイン科、電子電気科、情報工学科の五つの科で構成され「より良い社会をつくる人となるう」の教育信条のもと「ものづくり」や「資格検定取得」、「地域との交流」など特色のある教育活動を通じて、社会に貢献する人材の育成に努めています。また、令和二年度より文部科学省の「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」(プロフェッショナル型)の指定を受け、各学科が連携して学校全体で福井の工業をけん引する技術者の育成を目指しています。

同校PTAは、会長、副会長、会計、監査と総務広報委員会、行事委員会、生徒指導委員会の三つの専門委員会組織されており、様々な活動を和気あいあいと行っています。

主な活動としては、例年五月上旬に開催される強歩大会での休憩所運営(生徒の通過チェックや湯茶提供)、朝の交通指導(六月、九月)、十月上旬に開催される学校祭でのバザー、卒業生用のコサージュ作り(二月)、生徒玄関前に飾ってあるプランター花壇づくり、年二回の広報誌発刊などです。

学校祭でのバザーでは例年、カレー、



PTAバザー



広報誌編集作業

やきそば、やき

とり、フルーツをP

TA総出で調

理、販売を行っ

ており、大勢の

生徒から大変好

評を得ておりま

す。また、PTA

の一体感を出

すために、生徒

がデザインした

Tシャツを学校

祭前に皆でプリ

ントし当日着用

しております。

昨年度、今年度

は、コロナ禍に

より市販のやき

とり(秋吉)と

おにぎり、飲料

生徒たちも喜んでくれていたようです。

広報誌については、同校の校章に

も使用されている「水仙」という名称

で、年二回(七月、三月)発刊してお

ります。発刊にあたっては総務広報委

員会が中心となって、学校行事や部活

動について独自に取材を重ね、月一、二回のペースで委員会を開催し、特色ある親しみやすい紙面になるように、様々なアイデアを出し合い、企画編集に取り組んでいます。その甲斐があ

Introduction

美方高等学校

コロナ禍のため、ちよつとおじやませず、調査広報委員として自校PTAの紹介をさせていただきます。

美方高校は、坂の上の校舎、周囲は山と農地、そして眼下には名勝三方五湖と若狭湾というドラマのようなロケーションに立地しています。また

「地域」によって設立された学校で、立地自治体の町長が後援会長を務める、

全国でも例のない公立高校です。この

地域の支援は、開校から

現在も続いており、全国で

活躍する部活動の影響もあり、嶺北や県外からの入学

もある魅力ある学校です。

そして、本校PTAは、

本校生徒の保護者及び教職員

の目的に賛同する有志が会員となり、会

員子弟の人格



画のみとなりました。

次に生活委員会では、登下校やJRT

通学時の安全とマナー向上のため、春

と秋に「交通マナーアップ指導」を行

っています。また、アンケートによる

通学路危険箇所調査を実施し、その

改善を自治体等に依頼しているほか、

安全な登下校や健全な学校生活のため

の短いメッセージを募集し生徒に周知

する「親から子へのメッセージ募集」

も実施しています。

登下校時のマナーアップ運動
父母からのメッセージ

- マスクでも、その目の届かざる 仮ります
- 人を見つめるマナーと着せがれば みんなが幸せ
- 思いやり 嫌やして 迷惑なくぞ!
- 帰宅時間 家族に告げて 安心感

あひせつ 礼儀は 美意識の誇りとなるように

- 挨拶と まぶしい笑顔で 元気な
- あなただけのおはようが 誰かのやる気スイッチ
- スマホより目を見て挨拶 朝一番
- 挨拶は 心を癒やす 魔法の言葉

道路は危険がたくさん、しっかり目を確認してね

- 急な急いよ 歩道横断の 踏ん切り
- 朝 余裕を持って 家を出よう
- 歩とりの持ち 常に心は両面
- 心にゆとりを 踏道にゆとりを 何事も10分前行動
- そのおせり そのスピードが 事故のもと
- 停止位置 しっかり守って! 事故のもと

顔上げて! スマホ見るより 今を見よう

- 落ちついて 慌てず 急がず 歩きスマホはやめようね
- 前を見よう! 歩きスマホは命取り
- 命より ながらスマホが大事なかな?
- 信号を すぐホッパししっかりチェックしよう
- 危ないよ 歩きスマホ、事故のもと

文化委員会は、生徒が制作した美高総合文化展『ABELLA PIAZZA』の広報ポスターを配布・掲示して宣伝の協力活動を行います。また、

学校祭「美高祭」では

生徒が毎年

楽しみにし

ているカ

レーライスの

調理・販売を行う模

擬店「華麗屋」の中心





強歩大会



PTA朝の交通指導

り、同校の広報誌は福井県高等学校PTA広報誌コンクールで平成二十五年から入賞を続け、平成三十年から四年連続で最優秀賞を受賞しております。

今後、PTA活動を通じて、学校と保護者が繋がりを深め、生徒たちが明るく健全な学校生活を送れるとともに、同校が福井県の産業界の担い手を育成する高校として益々発展することを願っております。

(科学技術高校PTA会長 東真一)

インフォメーション

第七十回全国高等学校PTA連合会大会 島根大会(八月二十五日)

※原則無観客・オンライン配信
・全体会 ライブ配信
・分科会 前撮りした画像をライブ配信
☆十二月三十一日までアーカイブを視聴できます。ご利用ください。

全国大会会長表彰(県内被表彰者・団体)

【個人】(敬称略・令和二年度役職)

高P連会長・足羽高等学校PTA顧問

齋藤力

高P連副会長・三国高等学校PTA会長

北村辰一

高P連副会長・美方高等学校PTA会長

田中正志

高P連事務局長 直正修一

【団体】

科学技術高等学校PTA

敦賀高等学校PTA

第二回理事会

九月十一日(土)午前に県生活学習館で開催された。小林会長の挨拶の後、県教育長との懇談会や研究大会の持ち方、キャリアガイダンスの最終確認等を協議した。

県高P連 キャリアガイダンス研修会

九月十一日(土)午後には福井県立図書館多目的ホールにて五十名の参加を得て

完成をめざし、心身の健全な発達を期

するとともに会員自らの教養の向上を図ることを目的として事業を行っております。また、その活動は主としてPTA理事を中心に行われており、四つある委員会(例年であれば実施されている活動も含め)の概要を紹介します。

まず、進路委員会ですが、主として卒業三十周年を迎えた先輩方に社会人としての経験等を話してもらう会「先輩と語る会」、生徒の進路先候補を視察研修する「進路視察研修会」をそれぞれ企画運営していますが、今年度は企

開催された。

☆露木氏の講演は、県高P連HPから視聴できます。(詳細は本文記事参照)

第三回理事会

十月二十二日(金)十四時から県庁教育委員会室で開催された。小林一朗県高P連会長の挨拶の後、教育長との懇談会の役割分担と最終確認、令和四年度福井県高P連高校生総合保障制度等について協議した。

県教育長との懇談会

十月二十二日(金)十五時三十分から県庁教育委員会室で開催された。(詳細は本文記事参照)

県高P連研究大会

十一月六日(土)午後から福井商工会議所コンベンションホールにて県高P連

したが、今年度は残念ながら中止となりました。また、二州地区四高校のPTAが合同で催すレクリエーション大会へも中心となって参加しますが、今年度は中止となりました。

最後に、広報委員会です。各学期末とPTA総会時に発行するPTAだより『湖声』の作成を実施しています。これら四つの委員会に各会員が所属して活動するほか、それ以外の学校行事や保護者懇談会などに積極的に協力、参加するのが美方高校PTAです。

(美方高校PTA会長 瀨野利彦)

研究大会が開催された。(詳細は本文記事参照)

今後の主な行事予定

◆第四回理事会

日時 一月二十二日(土)午前十時半

場所 生活学習館二階 団体会議室B

◆各校PTA会長・PTA担当者合同会議

日時 一月二十二日(土)午後一時半

場所 福井県中小企業産業大学校(県生活学習館西隣)

◆県高P連広報紙コンクール審査会

日時 四月十六日(土)午後

場所 県生活学習館

(令和三年度の県高P連調査広報委員会の委員により実施)

高校生総合保障制度 事故受付状況と保険金請求手続きについて

二〇二一年も終わりに近づき、高校生総合保障制度につきましても、数多くのご請求やお問い合わせが保護者の皆さまから当事務局へ寄せられております。今回は昨年度の事故受付状況と保険金請求手続きについてご案内いたします。

一、事故受付状況について

二〇二〇年四月～二〇二一年三月までの直近一年間の事故受付状況ですが、事故累計で三十四件お支払い致しました。内訳として、支払件数が多いのが通院補償一三六件、傷害医療費用補償のお支払いが一〇一件となっております。事故の内容で、最も多いのは、例年スポーツ中の事故となっており、次いで自転車運転中の事故となっております。

この保障制度では全プラン、学校から貸与されたタブレットの破損による法律上の損害賠償責任も補償対象となっておりますが、具体例として、今年度自転車通学中の転倒によりタブレットを破損され保険金をお支払いしたケースなどがあります。

最後に、福井県では来年自転車条例が施行される予定になっております。福井県高校生総合保障制度は全プラン自転車条例に対応しておりますので当制度の加入をご検討頂ければ幸いです。

二、保険金の請求手続きについて

ケガ・病気・賠償事故の場合
下記連絡先(0120-3300399(通話料無料)：二四時間受付)まで、お手元加入者証をご用意の上、ご連絡ください。
必要書類等につきましてご案内いたします。

○中途加入に関するお問合せ先

高校生総合保障制度事務局
株式会社アイル保険センター

〒910-0003

福井県福井市松本4丁目6番15号

TEL:0776-12313419

(受付時間：9時～17時 日、祝日、年末年始除く)

保護者の皆様へ 2021年度版

福井県高等学校PTA連合会

適用される割引率※

15% 割引

高校生総合保障制度

ご案内 [こども総合保険 + 自転車総合保険]

学校の
休みの日でも

大切なお子さまを補償期間(保険期間)中、1日24時間補償します

ただし、一部の補償は24時間補償ではありません。

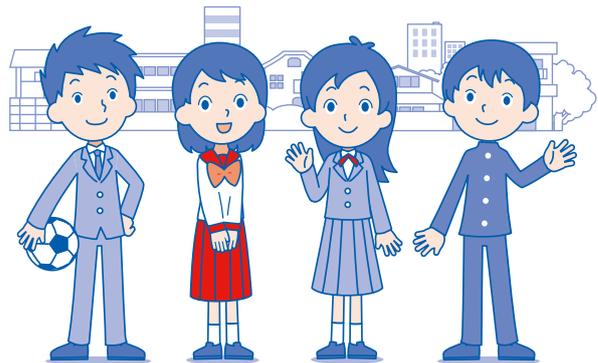
● 全プラン、学校より貸与されたタブレットの破損も補償されます。

自転車事故等による損害賠償責任も
最高3億円まで補償

示談交渉サービス*付き!

*示談交渉を行う場合は、被保険者および被害者の同意が必要です。国内のみのサービスとなります。

小学5年男子児童の自転車衝突で母親に
約9,520万円の賠償命令(神戸地裁判決)



扶養者の方が事故で万一の際に
育英費用を補償

高校3年間と大学等の合計で、
約965万円の教育費がかかります!

出典:株式会社日本政策金融公庫「教育費負担の実態調査結果」(令和2年度)

簡単支払特急便

スピード対応 お電話一本で手続き完了

ケガによる入院・通院、病気による入院・手術で
10万円以下のご請求は、電話による事故報告のみで
保険金をお支払いします。

プランによって補償項目が異なる場合がありますので、詳しくはパンフレットのプラン表をご確認ください。

※割引率について:パンフレットで案内している保険商品の算出基準である保険料(加入者数20名未満の団体における保険料)に対しての割合を示します。適用される割引率は前年度の加入者数、過去の損害率等に応じて決定します。

引受保険会社: AIG損害保険株式会社